

8. 被災地調査報告

岩手県視覚障害者福祉協会、福島県点字図書館、日本盲導犬協会の協力により、今なお仮設住宅での生活が強いられてしまっている利用者に震災発生時の状況や現状についてのヒアリングをおこなった。

調査項目

1. 災害前に災害に備えて何か準備をしていましたか。
また、準備をしていた方は、どのような準備が役に立ちましたか。
2. 災害が起きたときに何処からの情報が一番頼りになりましたか。
3. 実際の災害時、どのように避難しましたか。
(1人で、近所の人と等)
4. 避難時、緊急持ち出し品として何を持って行きましたか。また、何を持って行けば良かったと思いますか。
(白杖、ラジオ等)
5. 災害時の避難場所を以前から知っていましたか。知らなかった方は今回の震災でどのように避難場所を知りましたか、またどのような方法で避難場所を教えてくれると分かりやすいですか。
6. 第2次避難所の指定について、盲学校や視覚障害団体や施設が指定されていれば、過ごしやすかったと思いますか。
7. 避難所の管理者に自分に視覚障害があることをお知らせしましたか。視覚障害があることをお知らせしたことで特別な配慮はありましたか。
また、お知らせしなかった方はその理由は何ですか。

8. 避難所では健常者とは別に、他の教室や、広い避難所の一角に障害分野別にスペースを設けて欲しかったですか。
9. 避難所では障害別に支援してくれる支援員（保健師、栄養士、ホームヘルパー、ボランティア、生活面をサポートしてくれる人）がいるといいと思いますか。またその支援員にはどのような支援を望みますか。
10. 災害に関する情報をどこに聞いたら良いか迷ったことはありますか。
11. 災害時に視覚障害者の安否確認がすぐにできる仕組みがあればいいと思いますか。
12. 家族に晴眼者がいることで、視覚障害者に対する援助を減らされたことはありましたか。
13. 被災した視覚障害者が集まって、問題について話し合うコミュニティがあったらいいと思いますか。
14. 今回の災害について、各市町村で説明会が開催されていますが、その開催情報を得ることができますか。
また、説明会に参加するためにはどのような援助を望みますか。
15. 災害後、自治体の就労支援を利用しましたか。また自治体において視覚障害者が働く場を作って欲しいと思いますか。
16. 現在公的な補助以外で収入はありますか。またどのようなことで収入を得ていますか。

（1）岩手県の様子

期 日：平成24年2月26日（日）

場 所：岩手県福祉の里センター

ヒアリング：大船渡市、陸前高田市在住の視覚障害被災者

性別：男性7人 女性2人

年齢：30代2人 40代1人 60代3人 70代3人

1. 防災

1) 防災情報

- ・災害発生時にはラジオからの情報を一番頼りにしていたと回答した人が67%にのぼり、多くの人が、ラジオを聞いていた。

2) 備え

- ・災害時に備えて何かを準備していたと回答した人が、20%と低い水準であった。準備をしていた人は、ラジオが役に立ったと回答している。
- ・以前から避難所を知っていたと回答した人が60%を超えた。津波の被害で、避難所が利用できず、違う避難所へ移った人もいるが、以前から避難所を把握し、防災意識が高かった。

2. 情報

1) 発生時

- ・ラジオ、携帯電話から流れる情報を頼りにしていた。
- ・視覚障害者に特化した情報が視覚障害者福祉協会や支援団体からあったので助かった。

2) 発生後

- ・近隣の人から情報を得た。自治体からの情報はほとんどなかった。

3. 避難

- ・家族や近隣の人達と一緒に避難した人が多かった。津波で指定されていた避難所に避難できなかつたときにも団体で移動できた人が多かった。
- ・第2時避難所についてはほとんどの人がその存在を知らなかつた。また、盲学校や視覚障害者の福祉施設が指定されていれば良かったと回答した人が多かった。

4. 避難所

1) 避難所

- ・避難所で、視覚障害の特性に配慮した支援を受けられた人は少なく、移動時の介助や個別のスペースを設けるなどの支援が必要と回答した人が多かった。
- ・支援員はいなかったが、保健師がいてくれればよかったと思う。持病の薬を持って避難することができなかつたため、血圧を測る、薬を提供してくれる人がいれば良かったと回答した人が多かった。

2) 第2次避難所

- ・視覚障害者の福祉施設が、第2次避難所に指定されていることを知らなかったと回答した人が多かった。第2次避難所については、視覚障害の特性を理解している盲学校や視覚障害者の福祉施設を希望する人がほとんどであった。

5. 援助

1) 援助

- ・白杖を持っていることで、視覚障害者であることを分かってもらって援助を受けることができた人がいた。
- ・災害時の雇用確保のため、短期間の仕事については募集があるが、視覚障害者ができる仕事が少ない。
- ・今まで歩いていた道が歩けなくなってしまった。体調管理のため、歩く時の援助が必要。
- ・被災した視覚障害者が集まって情報を共有するコミュニティがあるといいと思う。
- ・震災の影響で、交通機関が駄目になってしまったので、生活するのは不自由である。
- ・家族に晴眼者がいる場合は、一緒に避難することができたが、一人暮らしの人の避難に関して対応が必要だと思う。
- ・視覚障害者のための情報が不足しているので、安否確認や情報提供をして欲しいという人がほとんどだった。

2) 収入

- ・公的な補助金以外で、収入がある人は、あん摩マッサージ業を営んでいると回答した人が多かった。



・岩手県ヒアリングの様子

(2) 宮城県・仙台市の様子

期日：平成24年1月28日（土）、3月6日（火）

3月11日（日）

場所：宮城県、仙台市、メトロポリタン仙台他

ヒアリング：宮城県在住の視覚障害被災者

性別：男性19人 女性10人

年齢：40代3人 50代11人 60代14人 70代 1人

1. 防災

1) 防災情報

- ・ほとんどの人がラジオから情報を得ていた。携帯電話も持って避難することができたが、すぐに電池が切れてしまった人もいた。事前に自治体から防災マップが配られていたところもあったようだった。
- ・自治体の防災無線が流れていたが、あまり聞こえず、何に対するの情報なのかわからなかった。

- ・防災マップなどが事前に配付されているところがあったが、あまり有効ではなかった。事前に避難所を確認しておくことが大切だと思う。

2) 備え

- ・用意していた非常持ち出し品が、災害で利用できなかった人もいた。
- ・水や懐中電灯、避難場所を確認、家具の転倒防止をしていた人もいたが、ほとんどの人が事前に用意をしていなかった。やはり、事前にラジオや電池、現金、保険証を持って出ることができれば良かったと回答した人が多かった。

2. 情報

1) 発生時

- ・ラジオ、携帯電話からの情報が役立った。特に視覚障害者の福祉団体や支援団体からの情報が役立った。近所の人や視覚障害者の友人と安否確認のため、情報交換をしていた。

2) 発生後

- ・近隣の人から情報を得た。
- ・視覚障害者の友人と情報交換をしていた。

3. 避難

- ・白杖を持って外出することができず、外を歩くのに困ってしまった。
- ・自治体や社会福祉協議会の職員が安否確認に来たという人は少なかった。
- ・第2次避難所についてはほとんどの人がその存在を知らなかった。また、盲学校や視覚障害者の福祉施設が指定されていれば良かったと回答した人が多かった。

- ・ 家族や近隣の人達と一緒に避難した人が多かった。津波で指定されていた避難所に避難できなかったときにも団体で移動できた人が多かった。近隣の人に自分が視覚障害者であることを理解してもらい、助かったという人が多くいる。

4. 避難所

1) 避難所

- ・ 保険証を持って出なかつたので、薬をもらうことができなかつた。保険証と持病の薬は持って出たほうがいいと思った。
- ・ 避難所では個別支援員、特にトイレへの移動介助や食事の提供についての支援があれば良かったと回答した人が多かった。
- ・ 避難所で、視覚障害の特性に配慮した支援を受けられた人は少なく、移動時の介助や個別のスペースを設けるなどの支援が必要と回答した人が多かった。

2) 第2次避難所

- ・ 避難所に指定されていないと食事や支援物資も届かないので、福祉施設を早期に避難所に指定してもらい、移動させて欲しい。
- ・ 視覚障害者の福祉施設が第2次避難所に指定されていることは知らなかつた。第2次避難所については、視覚障害の特性を理解している盲学校や視覚障害者の福祉施設を希望する人がほとんどであった。

5. 援助

1) 援助

- ・ 災害に関する情報を、各自治体で説明会を開催しているが、開催地が遠く、ガイドヘルパーを頼まないと参加することができないので、それぞれの地域ごとにやって欲しい。
- ・ 行政からの安否確認はなかつたが、視覚障害者の団体から安否確認や情報提供があり、安全に避難することができた。

- ・被災した視覚障害者が集まって情報を共有するコミュニティがあるといい。
- ・震災の影響で、交通機関が駄目になってしまったので、生活するのに不自由である。
- ・家族に晴眼者がいる場合は、一緒に避難することができたが、一人暮らしの人の避難に関して対応が必要だと思う。

2) 収入

- ・公的な補助金以外で、収入がある人は、仮設住宅などであん摩マッサージ業を営んでいると回答した人が多かった。



・宮城県ヒアリングの様子



・宮城県ヒアリングの様子

(3) 福島県の様子

期日：平成24年3月4日（日）

場所：南相馬市・仙台市メトロポリタンホテル

ヒアリング：

性別：男性3人 女性5人

年齢：30代1人 50代1人 60代4人 80代2人

1. 防災

1) 防災情報

- ・ 普段から自治体において、広報紙を点字や音声にして配付をしておらず、防災や避難所の情報が得にくかった。また、広報紙があるところでも、防災に関しての掲載がなかった。
- ・ 災害発生時に消防が緊急無線で情報を提供してくれたが、聞き取ることができず、どのように避難するかが分からなかった。

2) 備え

- ・ かばんに水や食料などを用意していたが、急いで避難したため、持っていくことができなかった。
- ・ 避難所の場所が事前に調べられてなかった。やはり情報があつたほうがいいと思う。

2. 情報

1) 発生時

- ・ ラジオ、携帯電話からの情報が役立った。テレビからの緊急放送は、字幕で表示されることが多く、分からないことが多かった。

2) 発生後

- ・ ラジオの情報が役に立ったが避難所ではラジオの電波が入らないところもあった。

3. 避難

- ・ 近隣の住民と一緒に避難することができた。日頃から近所付き合いが大切だと思う。
- ・ 避難所を何ヶ所もまわったが、視覚障害があることを理解してもらえずに怒鳴られたりしてしまった。
- ・ 自治体からの安否確認は無かった。

4. 避難所

1) 避難所

- ・福島県では、原発事故での避難のため、何ヶ所かの避難所をまわった。
- ・支援員はいなかったが、保健師がいてくれればよかったと思う。保険証を持っていけなかったので、病院に行くことができなかった。
- ・避難所では個別支援員、特にトイレへの移動介助や食事の提供についての支援があれば良かった。
- ・避難所で、視覚障害の特性に配慮した支援を受けられた人は少なく、移動時の介助や個別のスペースを設けるなどの支援が必要と回答した人が多かった。

2) 第2次避難所

- ・福祉避難所について、県外に設置されていることも知らせて欲しい。
- ・視覚障害者の福祉施設が第2次避難所に指定されていることは知らなかった。第2次避難所については、視覚障害の特性を理解している盲学校や視覚障害者の福祉施設を希望する人がほとんどだった。

5. 援助

1) 援助

- ・災害の情報について、各自治体において説明会を開催しているが開催地が遠くガイドヘルパーを頼まないと参加することができない。
- ・福島市など大きな市で開催することが多いので、地元で開催して欲しい。
- ・東電の賠償金などで、情報が錯綜してしまい、混乱してしまった。視覚障害者にも分かりやすい情報提供をして欲しい。

- ・ 福島県の場合、原発で避難している人も多く、避難生活も長引いてしまうため、長期の支援をして欲しい。

2) 収入

- ・ 公的な補助金以外で、収入がある人は、あん摩マッサージ業を営んでいると回答した人が多かった。



福島県ヒアリングの様子

○体験者の話

・避難について

3月11日（金）に東日本大震災が発生してすぐには酪農を営んでいたため避難することができませんでした。16日（水）に防護服を着た人が迎えに来るまでは、避難しませんでした。また、今の仮設住宅に避難するまでは4ヶ所の避難所をまわりました。どの避難所でも支援員はいませんでした。最初に避難した先では、視覚障害者であるのに、まわりの人に怒鳴られてしまって十分な支援が受けることができませんでした。2回目に移ったデイケアの施設ではトイレへの介助などを受けることができ、本当にありがたかったです。視覚障害者は多くの人がいる体育館などの避難所では生活することが困難なので、視覚障害の特性を理解している支援員がいる施設に移動できるような体制を今後とって欲しいと思います。（福島県 80代男性弱視・ 80代女性全盲夫婦）

・避難所について

避難所を把握していませんでした。避難所を把握していれば、慌てることなく、避難することができたと思います。避難所の場所を把握しておくことと、事前にその場所まで実際に歩いて見ることが必要だと思います。また、避難所では多くの人々が避難しているので、私達にとっては過ごしにくいことが多くありました。自分が視覚障害者であることを避難所の責任者に伝えて、個別の支援を受けられるようにしましょう。（岩手県 60代男性全盲）

・安否確認について

震災発生時に自治体からの安否確認はありませんでした。私は家族がいたので、あまり不安になりませんでした。単身の視覚障害者の方も多いと思います。自治体では、要援護者の名簿をも

とに、障害者、特に単身者について把握し、安否確認や、避難指示などを徹底してもらいたいです。今回の震災で問題になったことを踏まえて、次の震災に備えてほしいです。（仙台市 60代男性）

・避難所の情報や食事について

避難所で食事をもらう時に、列に並ぶのも苦労しましたし、また食事をもらって、戻る時に落としてしまったりしました。また、避難所の情報は、掲示板に貼る時に案内するのみでしたので、情報を得ることが難しかったです。しかし、避難所の責任者や職員の方々は、避難者の割に数が少なく、なかなか頼めませんでした。避難所では、もうすこし、サポートをしてくれる人を増員するなどを検討してもらいたいです。（宮城県 40代男性弱視）

・事前準備について

食料や水をリュックに入れて準備をしていました。しかし、津波の影響で、リュックを持ち出すことができませんでした。食料などを準備しておくことは大切だと思いますが、すぐに持ち出せる場所において置くことも必要だと思います。（宮城県 50代女性全盲）

・災害時の情報について

東日本大震災の発生時、また、避難後も行政からの情報はありませんでした。県の視覚障害者福祉協会から、携帯電話にメールで相談窓口や支援情報が送られてきたので、自分がどのように動いていいのかわからない中で、本当に助かりました。いざという時には視覚障害者福祉協会からの支援が本当に助かりました。改めて視覚障害者の団体には加入していたほうが良いと思います。（宮城県 60代女性弱視）

・日頃の近所付き合いについて

震災発生時に隣に住んでいる人が来てくれて一緒に避難することができました。発生時、大きな揺れとラジオを聞いていたので、すぐに避難しなければいけないということが分かりましたが、どうしていいのかわからなかったのも、隣に住んでいる人が来てくれなかった場合は、助からなかったかも知れません。日頃から近所の人と付き合いが大切だと身をもって知りました。(岩手県 50代男性全盲)

・福祉避難所について

最初に地域の体育館に避難をしました。その後那須塩原に避難した時に、塩原視力障害センターを紹介されました。家族で避難しようとしたのですが、すでに避難者でいっぱいなので避難することができず、三重県にある親戚の家に避難しました。視覚障害者の福祉施設が、避難所に指定されていることを知らなかったのも、視覚障害者の福祉施設が、福祉避難所に指定されることを広報する仕組みが必要だと思います。(福島県 60代女性弱視)

・就労について

仮設住宅でははき業を営んでいるが、客数が減ってしまい収入が減ってしまっています。将来のことを考えるとすごく不安になってしまいます。しかし、就労の支援を受けると返金するのも大変なので、もっと視覚障害者に配慮した支援をして欲しいと思います。(福島県 60代男性全盲)

・避難所でのトイレについて

避難所ではトイレの利用が非常に困りました。トイレまで行くのにもどこにあるのかわからずに介助者が一緒にいないと行くことができません。夜などは我慢することがありました。また、トイレでは、流す方法もわからなく、また、水がなくて流すこと

ができず、便器の横に袋が置いてあり、そこに使用した紙を入れるようになっていたため、衛生的に見てもやりづらかったです。
(岩手県 60代男性)

・避難先での支援

避難先がグループホームでしたので、介助をしてもらいました。ただ、避難所では、座ってばかりだったので、健康のことを考えると散歩や外出などを支援してくれる人がいてくれれば良かったと思います。(仙台市 60代男性全盲)

・説明会について

災害関係の説明会が自治体などで行われていますが、資料も分かりにくく参加することができませんでした。参加したい意欲はあるので、視覚障害者向けの説明会も開催して欲しいです。(仙台市 50代女性全盲)

